

兵庫県のハムシ(4)

(兵庫県甲虫相資料・363)

高橋 寿郎[†]

Subfamily Galerucinae ヒゲナガハムシ亜科

Genus *Agelasa* Motschulsky

109. *Agelasa nigriceps* Motschulsky, 1860

キクピアオハムシ

Motschulskyが日本産に基づき1860年に記載した種である。年1化で、成虫で越冬する。越冬成虫は6~7月、幼虫は7~8月、そして新成虫は9~10月にかけて見られる。食草はヤマナシ、ヤマブドウなど。

兵庫県下には広く分布していると思われるが、どちらかといえば中央部より北に多い。

産地：宝塚市切畑字長尾山〔小田中・水野, 1993〕。神戸市摩耶山 (2exs., 14-VIII-1955), 御影 (1ex., 27-V-1958), 北区山田町芦谷溪谷 (1ex., 13-IV-1982)。朝来郡朝来町須留ヶ峰 (1ex., 5-VI-1975, M. Yuma leg.), 和田山町糸井溪谷〔上田, 1996〕。神崎郡橋ヶ原〔木元・日浦, 1965〕, 大河内町川上 (5exs., 7-V-1977, etc.)。宍粟郡一宮町福知溪谷 (2exs., 3-VI-1975, M. Yuma leg.), 波賀町音水〔木元・日浦, 1965〕 (3exs., 10-V-1970, etc.), 赤西 (1ex., 9-IX-1978), 坂の谷 (4exs., 9-VI-1973)。氷上郡青垣町栗鹿峰, 三尾山〔山本, 1953〕, 柏原町 (1ex., 10-V-1953)。出石郡但東町奥赤〔高橋, 1975〕。城崎郡日高町万場〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山〔高橋, 1975, 上田, 1996〕。美方郡村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕, 温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975, 磯野, 1985〕。

Genus *Agelastica* Chevrolat

110. *Agelastica coerulea* Baly, 1874 ハンノキハムシ

Balyが“Yokohama”産に基づき記載した (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874: 188)。

食草はハンノキ, リンゴ, カンパ類などが知られている。1年1世代で、低地では4月下旬から6月中旬にかけて、成虫がハンノキ類に見られる。夏から秋にかけての成虫の採集例は山地帯に多い。幼虫が多数発生して林業害虫とされることがあるため、生活史に関する報告も多い。

兵庫県にも広く分布しており、よく知られているハムシである。

産地：津名郡淡路町岩屋 (1ex., 26-IV-1959)。川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1978, 1982〕。川西市一の鳥居〔木元・日浦, 1965〕。宝塚市室山寺〔木元・日浦, 1971〕, 玉瀬, 上佐曾利〔小田中・水野, 1993〕。西宮市盤滝 (5exs., 22-V-1987)。神戸市兵庫区鳥原 (1ex., 25-IV-1935), 北区山の街 (3exs., 3-V-1941, etc.), 山田町谷上 (8exs., 29-IV-1958), 山田町箕谷 (2exs., 30-V-1943, etc.), 山田町金剛童子山 (1ex., 24-VI-1950), 八多町芦谷溪谷 (2exs., 11-VI-1982), 八多町屏風 (5exs., 6-V-1993, etc.), 藍那 (1ex., 8-VII-1978), 須磨区多井畑 (4exs., 2-VIII-1941), 長待山 (4exs., 7-V-1982), 妙法寺 (1ex., 26-VII-1978, etc.), 西区押部谷町木津 (5exs., 30-V-1984), 伊川谷町前開 (2exs., 13-V-1988), 垂水区垂水 (12exs., 10-V-1985)。美囊郡吉川町 (1ex., 6-VI-1965)。三木市大村 (2exs., 10-V-1990)。小野市来住町 (4exs., 30-V-1991)。加東郡東条町森 (6exs., 29-IV-1984, etc.), 社町三草 (3exs., 7-V-1987, etc.)。神崎郡大河内町川上 (2exs., 7-V-1977, etc.)。多可郡加美町鳥羽 (1ex., 8-V-1976)。竜野市神岡町 (2exs., 26-V-1988)。揖保郡新宮町福原 (1ex., 15-VI-1992)。宍粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 3-VI-1975, M. Yuma leg.), 波賀町音水 (1ex., 11-VIII-1958, etc.), 赤西 (1ex., 27-V-1979)。多紀郡篠山町 (1ex., 17-IV-1976)。氷上郡春日町黒井〔山本, 1953, 1958〕。出石郡但東町〔高橋, 1963〕。豊岡市三宅〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 25-VII-1955, etc.)〔上田, 1996〕, 鉢伏山〔高橋, 1975〕, 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕。美方郡村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕, 浜坂町久斗山〔磯野, 1985〕。

Genus *Apophyllia* Duponchel & Chevrolat

111. *Apophyllia viridipennis* (Jacoby, 1895)

アオバホソハムシ

Jacobyが“Japan”を産地に *Galerucella viridipennis* として記載した種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:

744, pl.46, fig. 9) .

日本の本州にのみ分布が知られている種であり、木元 (1984) には中部地方産が示されている。

兵庫県下には次の記録がある。

産地：氷上郡青垣町栗鹿峰〔山本, 1953〕。養父郡大屋町杉ヶ沢〔磯野, 1985〕, 関宮町鉢伏山〔高橋, 1975〕。

Genus *Arthrotus* Motschulsky

112. *Arthrotus niger* Motschulsky, 1857

ムナグロツヤハムシ

GaschkevitchがSimodaで採集したものを基準標本として、Motschulskyが記載した (Etud. Ent. 6: 39, 1857) .

Balyは、Lewisが“Nagasaki, Yokohama, Hiogo”産で *Arthrotus variabilis* として記載した (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874: 183) が、本種の異名となる。さらに松村松年博士が“Kioto, Binomori”産で記載した *Luperodes suzuki* も、本種の異名となる (Ins. Mats., Vol.9, p.63, 1936) .

D. A. Ogloblinは“Simoda, Kioto, Nagasaki, Yokohama”のほかに、Zhenznouristが“Nikko”で採集したもの、Albrechtが“Hakodate”で採集したものを記録している (Fauna de l'URSS Ins. Col. XXVI, I: Chrysomelidae, Galerucinae, pp.330-331&438, Fig.136, 1936) .

この種は頭部、体腹面は黒色、体背面の色彩・斑紋の変異が多く、全体が黄褐色あるいは赤褐色のもの、赤褐色の地色に大小の黒色紋を装うもの、全体黒色のものがある。触角・肢の色彩も変異が多く、黄褐色、赤褐色、暗褐色、黒色など、さまざまな程度に変化する。食草としてハンノキ、クワ、イタヤカエデなどが知られている。年1化で、成虫で越冬し、5月頃に産卵を始める。成虫は4~10月に見られる。

分布は日本全国 (北海道、本州、佐渡、四国、九州、平戸島)。兵庫県下には広く分布し、ごく普通に見ることができる。

産地：津名郡淡路町岩屋 (2exs., 3-V-1969)。三原郡論鶴羽山〔大野, 1969, 久松, 1974〕。川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1978, 1982〕。川西市大和、横地、笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 多田 (1ex., 18-V-1952)。宝塚市武田尾 (1ex., 25-VII-1954), 玉瀬, 香合新田〔小田中・水野, 1993〕。西宮市船坂 (1ex., 21-V-1987, etc.), 盤滝 (1ex., 10-VI-1987, etc.)。Hiogo〔Lewis, 1874〕。神戸市六甲山 (4exs., 8-V-1955, etc.), 摩耶山 (3exs., 27-V-1953, etc.), 中央区二十番 (2exs., 26-VI-1955), 兵庫区鳥原 (1ex., 20-VII-1941, etc.), 北区山田町箕谷

(1ex., 30-V-1943), 山田町金剛童子山 (6exs., 24-VI-1956), 山田町丹生山 (4exs., 15-V-1955, etc.), 山田町谷上 (8exs., 3-V-1957, etc.), 八多町屏風 (1ex., 22-VII-1993), 八多町芦谷溪谷 (2exs., 5-VI-1982, etc.), 有野町逢山峡 (2exs., 2-VIII-1982, etc.), 西区伊川谷町前開 (1ex., 2-VIII-1988)。三木市口吉川町笹原 (1ex., 3-VII-1987), 口吉川町 (1ex., 4-IX-1986)。加東郡東条町森 (3exs., 4-VII-1984), 社町三草 (1ex., 15-V-1957, etc.)。多可郡加美町三谷 (2exs., 24-V-1975, etc.), 市原 (1ex., 24-IX-1972), 鳥羽 (2exs., 29-IV-1972, etc.)。神崎郡笠形山 (2exs., 12-VI-1975), 大河内町川上~砥峰 alt.550m~830m〔木元・日浦, 1971〕 (4exs., 7-V-1977, etc.)。三田市永沢寺 (1ex., 3-VI-1978)。揖保郡新宮町福原 (3exs., 15-V-1992, etc.)。相生市三濃山〔大野, 1967〕 (2exs., 3-V-1969, etc.)。佐用郡南光町船越山〔木元・日浦, 1965〕。栗粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 3-VII-1975, M. Yuma leg., etc.)。波賀町水谷 (3exs., 17-VII-1961), 上野〔相坂, 1995〕, 音水 (5exs., 20-VI-1959, etc.), 坂の谷 (1ex., 9-VI-1993)。多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕, 柏原町 (1ex., 10-V-1953), 山南町 (1ex., 5-VII-1990, etc.)。朝来郡生野町 (2exs., 8-VII-1956), 須留ヶ峰 (2exs., 9-VI-1975, M. Yuma leg.)。和田山町枚田, 枚田岡〔上田, 1996〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。城崎郡日高町奈佐路 (3exs., 22-V-1986, etc.)。竹野町三原, 日高町三川山〔上田, 1996〕。養父郡関宮町大久保~氷ノ山〔木元・日浦, 1971〕, 氷ノ山 (5exs., 2-VII-1953, etc.)〔高橋, 1975, 上田, 1996〕, 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕, 大屋町〔磯野, 1985〕。美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田, 1972, 高橋, 1975, 上田, 1996〕, 村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕, 村岡町兎和野〔磯野, 1985〕, 浜坂町味原, 宇都野神社, 護国神社, 城山〔磯野, 1985〕。

Genus *Atrachya* Dejean

113. *Atrachya menetriesi* (Faldernann, 1835)

ウリハムシモドキ

中国北部からFaldernannが *Galerca menetriesi* Fald.と記載した種である (Acad. St. Pterburg. Mem. 2:439, pl.5, f.7, 1835)。MotschulskyがDauria, Amur産で記載した *Luperodes nigripennis*, *Luperodes praeaeustus* は、共に本種のことである (Schrenck's Reisen Amurl, 2:232, pl.11, f.18, 19, 1860)。

日本からは、Balyが“Japan”を産地として *Iphidea diserepans* を記載した (Ent. Month. Mag. 2:127, 1865)

が、これも本種と同じものである。

上翅は変異に富み、全体が黒色のものから、基部が黄褐色のもの、周辺部と肩部を除いて黄褐色になるものなどがある。前胸背板は赤褐色、頭部は黒褐色。体腹面は黒色、触角も黒色で、基部2・3節は黄褐色、肢は一般に黒褐色、腿節末端部、脛節基部は黄褐色。

多食性で、食草はマメ類、サトウダイコン、ハッカ、マメ科牧草、材木の苗木など極めて広い。

分布も広く、日本全国、朝鮮半島、サハリン、シベリア、中国に産する。兵庫県下にも広く分布する。

産地：川西市一の鳥居〔仲田, 1970, 1982, 木元, 日浦, 1965〕, 妙見山〔仲田, 1970, 1978, 1982〕。神戸市兵庫区鳥原 (lex., 17-V-1937, etc.)、北区藍那 (lex., 19-VI-1978)、有野町逢山峡 (lex., 7-VII-1987)、八多町屏風 (lex., 2-IX-1993)。三木市口吉川町笹原 (lex., 3-X-1986)。美囊郡吉川町 (4exs., 27-VIII-1985, etc.)。小野市来住町 (lex., 30-V-1991)。加東郡東条町森 (lex., 22-VI-1984, etc.)。多可郡加美町三谷 (2exs., 13-VII-1975, etc.)、鳥羽 (Sexs., 5-VII-1975)。朝来郡生野町 (2exs., 8-VII-1956)。神崎郡大河内町川上 (lex., 18-VI-1977, etc.)。相生市三濃山〔大野, 1967〕。揖保郡新宮町福原 (2exs., 22-VI-1992, etc.)。宍粟郡波賀町水谷 (lex., 18-VII-1982)、音水 (3exs., 20-VI-1959, etc.)。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町水上〔高橋, 1963〕。豊岡市目坂〔上田, 1996〕。城崎郡日高町大岡山、上郷、香住町佐津〔上田, 1996〕、日高町蘇武岳〔高橋, 1975〕。養父郡関宮町氷ノ山 (lex., 12-VII-1955, etc.)〔上田, 1996〕、鉢伏山〔高橋, 1975〕。美方郡村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕、温泉町湯村 (lex., 27-VII-1952)。扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 磯野, 1985〕、浜坂町味原〔磯野, 1985〕。

Genus *Aulacophora* Chevrolat

114. *Aulacophora indica* (Gmelin, 1790) ウリハムシ

本種の学名には従来、Motschulskyが日本から記載した *Raphidopalpa femoralis* Motschulsky (Etud. Ent. 6, p.37, 1857) を、*Aulacophora* 属の下で用いていたが、木元新作博士は1994年出版の“日本山ハムシ類幼虫・成虫分類図説”のなかで、“*Indica*”から記載された *Crioceris indica* Gmelin (1790ed. Linnaeus, Syst. Nat., ed.13, 1, 4, p.170) を、上記の属名のものとして、本種にあてるべきだとした。

頭部・前胸腹面は赤褐色、腹部は黒色で、ウリ類の害虫としてよく知られている。分布は大変広く、日本全国、朝鮮半島、台湾、中国、南～東南アジア、オセ

アニアに及ぶ。

兵庫県下にも極めて普通に見られ、多くの個体が群れている場面を目にする機会が多い。

産地：津名郡淡路町岩屋 (lex., 24-V-1942)、愛宕山〔大野, 1969〕、津名町佐野〔堀田, 1959〕。洲本市先山〔大野, 1969, 酒井, 1993〕。三原郡諭鶴羽山〔大野, 1969〕、福原〔酒井, 1993〕、三原町八木養宣〔藤富, 1995〕。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1970, 1982〕。川西市大和、笹部〔仲田, 1978, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市売布が丘、香合新田、東洋町〔水野, 1993〕。神戸市御影〔関, 1933〕、中央区布引 (lex., 20-VII-1952)、兵庫区鳥原 (2exs., 16-IV-1939, etc.)、北区山の街 (lex., 5-V-1954, etc.)、山田町箕谷 (lex., 11-V-1952)、藍那 (lex., 19-VI-1978, etc.)、八多町屏風 (lex., 12-V-1993, etc.)、西区押部谷町木見 (lex., 3-VIII-1980)、押部谷町木津 (lex., 30-V-1984, etc.)、伊川谷町前開 (lex., 13-V-1988, etc.)、須磨区妙法寺 (lex., 19-IX-1978)、須磨〔戸沢, 1936〕、鉢伏山 (lex., 9-VII-1975)、多井畑 (lex., 23-V-1990)、石井ダム (lex., 3-X-1991, etc.)。三田市 (lex., 21-IX-1941)。三木市細川町細川中 (lex., 30-V-1985)、口吉川町 (lex., 4-IX-1986)。美囊郡吉川町奥山 (lex., 8-V-1986)。小野市山田町 (lex., 16-V-1987, etc.)、来住町 (lex., 30-V-1991, etc.)。加東郡東条町森 (lex., 29-IV-1984)、社町三草 (lex., 7-V-1987)。多可郡加美町三谷 (lex., 15-IX-1974, etc.)。神崎郡笠形山 (lex., 12-VI-1975)、大河内町川上 (lex., 7-V-1977, etc.)、神崎郡大山村 (2exs., 4-IX-1955)。朝来郡和田山町枚田岡〔上田, 1996〕。飾磨郡家島町家島 (lex., 26-V-1978)〔上田, 1981〕。龍野市神岡町 (lex., 19-V-1988, etc.)。揖保郡新宮町福原 (lex., 15-VII-1993)。佐用郡上月町 (lex., 3-V-1952)。相生市三濃山〔大野, 1967〕 (lex., 3-V-1969)。赤穂郡大和 (lex., 6-X-1974)。宍粟郡音水 (lex., 16-VII-1972, etc.)。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。豊岡市〔高橋, 1975〕。城崎郡日高町上郷、香住町佐津、香住町隼人〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 2-VIII-1953, etc.)。美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田, 1972, 高橋, 1975〕、浜坂町〔磯野, 1985〕。

115. *Aulacophora nigripennis* Motschulsky, 1857

クロウリハムシ

Motschulskyが“Japan”産で記載した種である (Etud. Ent. 6:38, 1857)。

体形はウリハムシによく似ている。頭部、前胸背板、

腹部は黄褐色，上翅，中胸および後胸腹面は黒色。触角・肢は黒色である。

ウリ類の害虫として知られている。分布は広いが，南アフリカや東南アジア，オセアニアには及んでいない。

兵庫県下にも広く分布している。

産地：津名郡淡路町岩屋 (1ex., 23-V-1948)，妙見山〔堀田，1959〕，愛宕山〔大野，1969〕，津名町常隆寺山〔酒井，1973，堀田，1992〕，洲本市先山〔大野，1969，酒井，1973，堀田，1976〕，鮎屋〔大野，1967〕，三原郡諭鶴羽山〔大野，1967〕，福原，灘〔酒井，1973〕，大日ダム〔堀田，1978〕，沼島〔楠井，1992〕，川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田，1978，1982〕，川西市笹部，大和，見野〔仲田，1978，1982〕，多田 (1ex., 4-VIII-1941, etc.)，伊丹市〔河上，1984〕，尼崎市西南部〔新家，1992〕，宝塚市玉瀬，上佐曾利〔水野，1993〕，西宮市船坂 (1ex., 21-V-1987, etc.)，盤滝 (1ex., 29-V-1987, etc.)，神戸市御影〔関，1933〕，布引 (2exs., 20-VII-1952)，兵庫区烏原 (3exs., 2-VI-1939, etc.)，北区山の街 (1ex., 17-V-1953, etc.)，山田町箕谷 (1ex., 13-V-1948, etc.)，藍那 (1ex., 10-VI-1978, etc.)，西区伊川谷町前開 (1ex., 13-V-1988, etc.)，須磨区多井畑 (1ex., 19-VI-1990, etc.)，石井ダム (2exs., 18-X-1981)，三木市細川中 (1ex., 13-IX-1985)，大村 (1ex., 10-V-1990)，小野市山田町 (1ex., 8-VII-1987)，飾磨郡夢前町雪彦山 (1ex., 14-VII-1957)，家島町家島〔上田，1981〕，加東郡社町三草 (1ex., 22-V-1989)，多可郡加美町三谷 (1ex., 2-VII-1975)，鳥羽 (1ex., 5-VII-1975)，神崎郡大河内町川上 (2exs., 4-VI-1977, etc.)，龍野市神岡町 (2exs., 25-V-1988, etc.)，揖保郡新宮町福原 (3exs., 15-V-1992)，相生市三濃山〔大野，1967〕，宍粟郡波賀町音水 (2exs., 20-VII-1959, etc.)，赤西 (1ex., 5-IX-1978)，氷上郡〔山本，1953，1958〕，山南町 (1ex., 5-VII-1990)，出石郡出石町〔高橋，1963〕，出石町森井〔上田，1996〕，豊岡市愛宕山〔高橋，1975〕，城崎郡日高町上郷，竹野町竹野〔上田，1996〕，養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 2-VII-1953, etc.)，美方郡温泉町湯村 (3exs., 27-VII-1952)，扇ノ山〔辻，1963，辻・岸田，1972〕，村岡町兎和野〔磯野，1985〕，浜坂町宇都野神社，護国神社〔磯野，1985〕。

Genus *Calomicrus* Stephens

116. *Calomicrus cyaneus* (Jacoby, 1885)

ハラグロヒメハムシ

Jacobyにより“Japan”産に基づき *Monolepta cyanea*

Jacobyとして記載された種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:748)。Fleischerが“Japan, Harima”産で記載した *Lupers (Calomicrus) japonicus* は，本種のことである (Ent. Ztg. 35:233, 1916)。

体背面は黒青色。体腹面，頭部，触角，肢は黒色。触角は比較的幅広く，末端節近くでは長さは幅の約2倍。体長3.0-3.8mm。食草はボタンヅル・センニンソウ。分布は本州，四国，九州である。

兵庫県下にもかなり広く産すると思われる。

産地：津名郡淡路町岩屋 (1ex., 25-IV-1954)，愛宕山〔大野，1969〕，三原郡諭鶴羽山，成相峠〔大野，1969〕，洲本市先山，鮎屋〔大野，1969〕，川西市笹部〔仲田，1978，1982〕，神戸市六甲山 (2exs., 10-VII-1955)，摩耶山 (2exs., 14-VIII-1955)，兵庫区烏原 (1ex., 25-IV-1954, etc.)，北区山田町金剛童子山 (3exs., 24-V-1956)，山田町谷上 (2exs., 7-V-1961)，山田町丹生山 (2exs., 18-V-1958)，山田町箕谷 (1ex., 30-V-1943)，八多町屏風 (5exs., 4-VI-1993, etc.)，西区太山寺 (1ex., 16-V-1957)，三田市内 (1ex., 1-IX-1941)，播磨〔Fleischer, 1916〕，飾磨郡夢前町雪彦山 (1ex., 14-VII-1967)，神崎郡笠形山 (1ex., 12-VI-1975)，大河内町川上〔木元・日浦，1971〕 (1ex., 3-IX-1977)，多可郡加美町白山 (1ex., 3-V-1973)，鳥羽 (2exs., 5-VII-1975)，三谷 (1ex., 4-IX-1976)，揖保郡新宮町福原 (3exs., 10-VI-1992, etc.)，相生市三濃山〔大野，1967〕 (11exs., 7-V-1969, etc.)，宍粟郡波賀町音水 (2exs., 20-VII-1959, etc.)，坂の谷 (2exs., 6-IX-1973)，多紀郡篠山町 (1ex., 17-IV-1976)，雨石山〔林ほか，1995〕，氷上郡神楽村 (現青垣町)〔山本，1953〕，養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 24-VII-1955)，美方郡温泉町扇ノ山〔高橋，1975〕，浜坂町宇都野神社，護国神社〔磯野，1985〕。

117. *Calomicrus noby* Chûjô, 1954

オオルリヒメハムシ

中條道夫博士が，四国の徳島県剣山 (Tsurugi-san) 産の標本に基づき，記載した種である (Shikoku Ent. Trans. 4(4):55, fig.2, 1954)。

体背面は黒青色，体腹面，頭部，触角，肢は黒色。触角は細長く，末端節近くでは，長さは幅の約3倍。前種ハラグロヒメハムシに似るが，体長はより大きく，4.8-6.0mm。食草はボタンヅルで，分布は本州，四国，九州である。

兵庫県下での分布は広いと思われるが，記録は意外に少ない。

産地：神戸市六甲山 (1ex., 29-IV-1966), 兵庫区烏原 (2exs., 10-VI-1966), 北区藍那 (1ex., 21-VI-1993, etc.), 山の街 (1ex., 5-V-1955), 八多町屏風 (3exs., 4-VI-1993), 三田市内 (1ex., 1-IX-1941), 加西市畑 (2exs., 23-VI-1974), 神崎郡大河内町川上 (2exs., 7-V-1977), 揖保郡新宮町福原 (3exs., 10-VI-1992), 相生市三濃山 (1ex., 20-V-1973, etc.), 宍粟郡波賀町音水 (3exs., 11-VI-1972)。

Genus *Chujoa* Gressit & Kimoto, 1963

118. *Chujoa uetsukii* (Chûjô, 1954)

ウエツキブナハムシ

中條道夫博士が, “Chuka-mura in Okayama Pref.” 産標本をもとに, *Atya uetsukii* として記載した種である (Mushi, Vol.26, No.1, p.2, pl.1, f.1, 1954)。のちに Gressit・木元新作両博士は, 本種をタイプに新属 *Chujoa* を創設した (Pac. Ins. Mon. 1B, p.437, 1963)。

日本の特産種であり, プナの害虫として知られている。兵庫県下では扇ノ山からの記録があるのみだが, プナが分布する地域, たとえば氷ノ山あたりにもおそらく産することが予想される。

産地：美方郡温泉町扇ノ山 [磯野, 1985]。

Genus *Clerotilia* Jacoby

119. *Clerotilia flavomarginata* Jacoby, 1885

キアシヒゲナガアオハムシ

Lewis の 2 度目の日本での採集旅行 (1880-1881) における “Tsumago, Nara” 産の個体をもとに, *Clerotilia flavomarginata* として, 図をつけて記載された種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:751, pl.46, f.12)。

前胸背板は赤褐色～暗褐色, 上翅は青緑色で赤褐色の光沢を装い, 周辺部は赤褐色, 体腹面は暗褐色。触角は暗褐色～黒色で, 肢は赤褐色。食草としてネコノチチ, クマヤナギなどが知られている。分布は本州, 四国, 九州, 中国である。

兵庫県下には広く分布していると思われるが, 意外に記録は少ない。播磨平野では, 比較的その姿を見ることが出来る。

産地：川西市東畦野花折橋付近 [仲田, 1979, 1982], 能勢妙見山 (6exs., 30-VII-1982), 宝塚市切畑 [小田中・水野, 1993], 三木市口吉川町 (4exs., 3-IX-1986), 小野市山田町 (1ex., 22-VII-1987), 加東郡社町三草 (12exs., 24-VI-1987, etc.), 龍野市神岡町 (5exs., 21-VII-1988), 氷上郡柏原町 [山本, 1953], 出石郡出石町 [高橋, 1963]。

Genus *Cneorane* Baly

120. *Cneorane elegans* Baly, 1894 キムネアオハムシ
Baly が “Nagasaki” 産に基づき記載した種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874: 182)。

上翅は緑青色, 小楯板は黒色, 前胸背板, 頭部は赤褐色。体腹面は黒色で, 中胸腹板は赤褐色。触角は黒色で, 基部数節は赤褐色。肢は一般に赤褐色で, ふ節・後肢腿節は緑青色。食草として, ヤマハギが知られる。分布は本州, 四国, 九州である。

兵庫県下における記録は非常に少ない。これはおそらく調査不足のためで, 実際には各地に分布しているのではないかと考えられる。

産地：神崎郡大河内町川上 (1ex., 2-VII-1977), 氷上郡青垣町粟鹿峰 [山本, 1953]。

Genus *Exosoma* Jacoby

121. *Exosoma akkoae* (Chûjô, 1954)

ハマダラヒメハムシ

中條道夫博士により, 山形県東根市, 福岡県英彦山, 大阪府妙見山, 和歌山県高野山, 徳島県剣山, 香川県大滝山, 長野県上高地, 愛知県蒲生村・茶臼山などの産地のものを cotype として, *Calomicrus akkoae* として記載された種である (Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol.4, Fig.1, pp.53-55, 1954)。木元新作博士は 1965 年, これを *Exosoma* 属に移した (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. Vol.13, No.3, pp.380-382)。

一般に黒青色, 腹部は一般に黄褐色で, 部分的に黒褐色。キバラヒメハムシに似るが, 細型で, ♂交尾器の形状が異なる。分布は本州, 四国, 九州, 台湾。

兵庫県下にも広く分布している。

産地：神戸市六甲山 (1ex., 8-V-1955), 摩耶山 (3exs., 14-VII-1955), 兵庫区烏原 (3exs., 5-VI-1943, etc.), 北区山田町金剛童子山 (5exs., 24-VI-1956), 山田町丹生山 (1ex., 15-V-1955, etc.), 藍那 (3exs., 3-VI-1978, etc.), 西区太山寺 (6-V-1957), 須磨区妙法寺 (1ex., 23-V-1979), 飾磨郡夢前町雪彦山 (8exs., 14-VII-1957), 多可郡加美町鳥羽 (8exs., 1-VI-1975, etc.), 神崎郡大河内町川上 (1ex., 7-V-1977, etc.), 朝来郡生野町 (1ex., 8-VII-1956), 宍粟郡波賀町音水 (10exs., 11-VI-1972, etc.), 赤西 (1ex., 9-IX-1978), 原 (1ex., 11-V-1979), 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 27-VII-1956)。

122. *Exosoma chujoi* (Nakane, 1958)

ニセキバラヒメハムシ

中根猛彦博士により, “Kosugidani, Miyanaoura,

Kurio in Yakushima, Sata, Ohsumi, Kyushu, Shimashima, Shinano, Honshu” 産に基づき, *Calomicrus chujoi* として記載された (Sci. Rep. Saikyo Univ. Vol.2, No.5, Fig.20, p.49-50, 1958). 前種と同じく, その後, 木元新作博士により *Exosoma* 属に移された (1965).

一般に黒褐色. 多くの場合, 腹部は全体が黄褐色. 分布は本州, 四国, 沖ノ島, 九州, 種子島, 屋久島, 中国中部.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 神戸市北区有野町逢山峡 (1ex., 19-VI-1966), 兵庫区鳥原 (1ex., 5-VII-1983, etc.). 神崎郡笠形山 (2exs., 12-VI-1966). 多可郡加美町鳥羽 (1ex., 5-VII-1975). 相生市三濃山 [大野, 1967] (1ex., 8-VI-1974). 宍粟郡一宮町福知溪谷 (7exs., 20-VI-1976). 波賀町音水 (1ex., 25-V-1972, etc.). 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955). 美方郡浜坂町味原 [磯野, 1985].

123. *Exosoma flaviventre* (Motschulsky, 1860)

キバラヒメハムシ

Motschulskyが, 日本から *Calomicrus? flaviventris* として記載した種である (Etud. Ent. 9:26, 1860).

一般に黒青色. 腹部は全体赤褐色. 体形はやや幅広い. 体長4.0-5.0mm. ノリウツギ, クリの花が食草とある (木元, 1984). *Exosoma* 属は県下に3種が産するが, 外部形態のみによって正確に同定することは極めて困難である. しかし, ♂交尾器の分化は顕著であり, これによって♂個体は同定が可能である.

この種は分布も広く, 日本以外ではシベリア, 朝鮮半島, 中国に分布している.

兵庫県下にも広く分布しており, 普通に見ることができる.

産地: 三原郡諭鶴羽山 [久松, 1974]. 洲本市先山 [久松, 1974]. 川辺郡猪名川町槻並 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 能勢妙見山 (4exs., 30-VII-1983). 宝塚市武田尾 (1ex., 25-VII-1954) [小田中, 1993]. 兵庫 [名和, 1936]. 神戸市兵庫区鳥原 (3exs., 29-IV-1955, etc.). 北区山の街 (7exs., 13-VII-1954, etc.). 山田町丹生山 (1ex., 15-V-1955, etc.). 有野町逢山峡 (2exs., 27-VII-1987). 藍那 (5exs., 21-VI-1993, etc.). 八多町屏風 (3exs., 4-VI-1993, etc.). 多可郡加美町三谷 (1ex., 13-VII-1955). 鳥羽 (2exs., 5-VII-1975). 神崎郡大河内町川上 (1ex., 9-VII-1977). 揖保郡新宮町福原 (3exs., 10-VI-1992, etc.). 相生市三濃山 [大野, 1967] (1ex., 8-VI-1974, etc.). 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958]. 多紀郡篠山町雨石山 [林

ほか, 1995]. 出石郡出石町 [高橋, 1963]. 城崎郡日高町大岡山 [上田, 1996]. 養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 2-VII-1953, etc.). 美方郡村岡町鉢北高原 [上田, 1996]. 扇ノ山 [辻, 岸田, 1972]. 浜坂町城山 [磯野, 1985].

Genus *Fleutiauxia* Laboissiere

124. *Fleutiauxia armata* (Baly, 1874) クワハムシ

Balyが “Nagasaki, Hiogo, Tsushima; Manchuria” 産をもって *Aenidea armata* として記載した種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874: 179).

Ogloblinは1936年, 本種を *Fleutiauxia* 属の種として扱った (Fauna USSR, 26, 1:184, 401, fig.76, 1936).

上翅は青緑色. 前胸背板, 小楯板, 体腹面は黒色. 頭部は黒色の前頭隆起と青緑色の頭頂を除き黄褐色. 触角は黒色, 基部4, 5節の下面は黄褐色. 肢は黒褐色で, 前肢腿節の末端部1/2, 脛節, ふ節は赤褐色. ♀では頭頂に臼状の突起を装い, ♂では正常. 体長5.0-7.3mm. 食草はクワ, ヤマノイモ, コウゾなどが知られている. 分布も広く, 日本全土のほか, 朝鮮半島, シベリア東部, 中国から知られている.

兵庫県下にはごく普通に見られる.

産地: 津名郡津名町常隆寺山 (2exs., 20-IV-1974). 愛宕山 [大野, 1969]. 三原郡諭鶴羽山 [大野, 1969, 堀田, 1978]. 洲本市鮎屋 [大野, 1969]. 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部, 横地, 大和 [仲田, 1978, 1982]. 伊丹市 [河上, 1984]. 宝塚市下佐曾利 (1ex., 13-V-1983) [小田中・水野, 1993]. 売布ヶ丘, 上佐曾利 [小田中・水野, 1993]. 西宮市船坂 (1ex., 5-VI-1987, etc.). Hiogo [Baly, 1874, Heyden, 1879]. 神戸市六甲山 (1ex., 8-V-1953). 摩耶山 (1ex., 27-V-1953). 兵庫区鳥原 (2exs., 25-IV-1954, etc.). 北区山の街 (9exs., 17-V-1953, etc.). 山田町箕谷 (6exs., 30-V-1943, etc.). 山田町丹生山 (1ex., 5-V-1956). 藍那 (6exs., 5-V-1963, etc.). 小部 (2exs., 10-V-1942). 八多町屏風 (3exs., 6-V-1993, etc.). 八多町芦谷溪谷 (1ex., 11-VI-1982). 西区押部谷町木津 (3exs., 11-V-1984). 伊川谷町前開 (1ex., 13-V-1988, etc.). 垂水区垂水 (4exs., 10-V-1985). 須磨区多井畑 (2exs., 23-V-1990). 美囊郡吉川町 (1ex., 27-VII-1951). 奥山 (4exs., 18-V-1986, etc.). 三木市口吉川町 (2exs., 16-V-1986). 小野市山田町 (1ex., 16-V-1987). 来住町 (2exs., 9-V-1991). 加東郡東条町森 (8exs., 11-V-1984, etc.). 社町三草 (1ex., 7-V-1987, etc.). 多可

郡加美町白山 (3exs., 3-V-1973), 三谷 (1ex., 3-V-1975, etc.), 鳥羽 (1ex., 1-VI-1975, etc.). 神崎郡笠形山 (1ex., 12-VI-1975), 大河内町砥ノ峰 alt.830m [木元・日浦, 1971], 川上 (6exs., 7-V-1977, etc.). 飾磨郡家島町家島 [畑中・辻, 1974] (1ex., 16-V-1978) [上田, 1981]. 揖保郡新宮町福原 (1ex., 7-V-1992, etc.). 相生市三濃山 [大野, 1967] (7exs., 3-V-1969, etc.). 佐用郡上月町 (1ex., 3-V-1952). 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 30-VI-1976), 波賀町音水 [木元・日浦, 1965] (3exs., 31-V-1970, etc.), 坂の谷 (2exs., 9-VI-1973). 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 氷上郡 [山本, 1953, 1958]. 朝来郡和田山町枚田岡, 玉置 [上田, 1996]. 出石郡出石町 [高橋, 1963]. 城崎郡城崎町 (1ex., 17-V-1970), 日高町大岡山 [高橋, 1975], 三川山 [高橋, 1975, 上田, 1996], 奈佐路 (4exs., 22-V-1986, etc.). 養父郡八鹿町妙見山 [上田, 1996], 関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955) [高橋, 1975]. 美方郡村岡町鉢北高原 [上田, 1996], 温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972, 高橋, 1975], 湯村 (1ex., 15-VI-1983), 浜坂町味原, 宇都野神社, 城山, 清富 [磯野, 1985].

Genus *Galeruca* Geoffroy

125. *Galeruca vicina* Solsky, 1872 アザミオオハムシ “Vladivostock” 産に基づき, Solskyが記載した種である (Honae Soc. Ent. Ross., 8, p.252, 1872). 日本からは, Weiseが “Japan: Yokohama” 産を用いて *Galeruca dahli* var. *japonica*を記載したものが, 本種にあたる (Dtsche Ent. Z., 1894, p.168).

体背面には粗大な点刻を密に装い, 前胸背板は中央部に1対のくぼみを有し, 前縁角はやや肥厚し角張る. 頭部は暗黄褐色, 体腹面は黒色. 食草として, アザミ, ギボウシ, フキが知られている. 北方系の種のように, 北海道, 本州, 南千島, 朝鮮半島, シベリア東部, 中国北東部に分布している.

兵庫県下では, 氷ノ山で藤田国雄氏が採集された2個体の標本が知られるのみで, それ以外の記録を知らない. よく調べてみなくてはならない種である.

産地: 養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 29-VII-1957, Fujita leg., in his coll., T. Takahashi det.).

Genus *Galerucella* Crotch

126. *Galerucella grisea* (Joannis, 1866)

イチゴハムシ

Joannisが “Sicily” 産に基づいて記載した種である

(1866, Abeille, 3, p.98). Balyが “Nagasaki, Yokohama” 産を基に記載した *Galleruca vittaticollis* (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:178), および “Nagasaki” 産を基に記載した *Galleruca distincta* (1874, ibid., p.178) は, 共に本種のことである.

一般に暗褐色, 中胸, 後胸腹面は黒褐色. 上翅の側縁はほぼ平行, 側縁の平坦部は狭く, 前胸背板の平坦部は狭い.

食草はギシギシ, タデ類, オランダイチゴが知られている. 分布は大変広く, 日本全土以外に, 朝鮮半島, サハリン, シベリア, 中国, 台湾, ヨーロッパに及ぶ. 兵庫県下にも広く分布している.

産地: 津名郡愛宕山 [大野, 1969]. 川西市一の鳥居 [木元・日浦, 1965], 笹部 [仲田, 1982]. 伊丹市 [河上, 1984]. 宝塚市宝塚駅 [木元・日浦, 1971], 売布ヶ丘 [水野, 1993]. 神戸市兵庫区烏原 (31exs., 27-IV-1973, etc.), 北区藍那 (1ex., 21-VI-1993), 垂水区東垂水 [木元・日浦, 1965]. 明石市明石公園 (8exs., 26-VI-1976). 三木市美嚢川川原 (1ex., 5-VII-1979). 加東郡東条町森 (3exs., 11-V-1984, etc.). 神崎郡大河内町川上 (2exs., 7-V-1977, etc.). 相生市三濃山 [大野, 1967]. 多紀郡篠山町籠坊 [仲田, 1982]. 氷上郡柏原町 [山本, 1953], 春日町黒井 [山本, 1953]. 朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]. 出石郡出石町 [高橋, 1963]. 豊岡市土湊 [高橋, 1963]. 城崎郡日高町 (2exs., 3-X-1985), 上郷, 竹野町竹野, 香住町土生 [上田, 1996]. 養父郡関宮町氷ノ山 (4exs., 25-VII-1955). 美方郡村岡町鉢北高原 [上田, 1996], 浜坂町味原, 護国神社, 清富 [磯野, 1985].

127. *Galerucella nipponensis* (Laboissiere, 1982)

ジュンサイハムシ

Laboissiereが “Japan” 産をもとに, *Hydrogaleruca nipponensis*として記録したものである (Rev. Zool. Afr., 10, p.120 nota, 1922). Balyが “Hiogo” 産で記載した *Galleruca sagittariae* (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:178), Weiseが “Kioto” 産で記載した *Galerucella paludosa* (Tijdschr. Ent., 65, p.68, 1922) は, いずれも本種のことである.

前胸背板は黒色, 前縁沿いは黄褐色. 上翅は黒色, 側縁沿いは暗褐色. 中胸・後胸は黒色, 腹部は黄褐色. イチゴハムシに似ている. 食草としてジュンサイ, ヒシ, ミズユキノシタ, シロネが知られている. 分布は本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, シベリア東部.

兵庫県下には広く分布しており, 食草の関係から,

池畔などに多く見られる。

産地：川辺郡猪名川町馬場〔仲田, 1979, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市内 (16exs., 23-IV-1956, etc.)〔木元・日浦, 1971〕, 下佐曾利 (1ex., 27-V-1961, K. Mori leg.)〔水野, 1993〕。Hiogo [Baly, 1874]。神戸市北区山の街 (8exs., 5-V-1955), 山田町金剛童子山 (1ex., 24-VII-1956), 西区押部谷町木見 (1ex., 20-VII-1980), 伊川谷町前開 (2exs., 6-VII-1988), 太山寺 (1ex., 17-V-1990), 須磨区須磨浦公園 (2exs., 5-VII-1987, Y. Hachitani leg.)。明石市内 (1ex., 11-VII-1954)。高砂市曾根〔木元・日浦, 1965〕。三木市口吉川町 (1ex., 14-VII-1986), 大村 (8exs., 10-V-1990)。小野市来住町 (1ex., 9-V-1991), 山田町 (3exs., 8-VIII-1987, etc.)。美濃郡吉川町奥山 (1ex., 17-V-1986)。飾磨郡家島町家島〔上田, 1981〕。氷上郡〔山本, 1958, 高橋, 1961〕。

Genus *Gallerucida* Motschulsky

128. *Gallerucida bifasciata* Motschulsky, 1860

イタドリハムシ

Motschulskyが日本産に基づいて記載した種である (Etud. Ent., 9, p.24, 1860)。Balyが“Hokkaido”産をもとに *Melospila consociata* (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:185) と記載したものも、本種のことである。

上翅の地色は黒色で、黄色の3横帯を装うが、それぞれの斑紋の大きさや形には変異が多い。頭部、前胸背板、体腹面、触角、肢は全体黒色。上翅には大小2種類の点刻を有し、前胸背板に1対のくぼみを装う。体長7.5-9.5mm。食草はイタドリ、スイバ。分布は日本全国、朝鮮半島、シベリア東部、中国、台湾。

よく知られたハムシで、兵庫県下にも広く分布しており、ごく普通に見られる。

産地：津名郡淡路町岩屋 (1ex., 26-IV-1957), 津名町常隆寺山 (2exs., 20-IV-1974), 洲本市先山〔大野, 1969〕。川西市一の鳥居〔木元・日浦, 1965〕, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市内 (1ex., 19-IV-1958), 売布ヶ丘, 上佐曾利〔小田中・水野, 1993〕。神戸市御影〔関, 1933〕, 中央区布引 (4exs., 17-V-1959), 兵庫区鳥原 (2exs., 18-IV-1937, etc.), 北区北鈴蘭台大山公園 (2exs., 7-V-1982), 山田町箕谷 (1ex., 30-V-1943), 山田町丹生山 (4exs., 5-V-1956), 藍那 (1ex., 23-V-1978, etc.), 八多町屏風 (1ex., 4-VI-1993, etc.), 西区伊川谷町前開 (3exs., 13-V-1988, etc.), 須磨区多井畑 (2exs., 23-V-1990)。小野市山田町 (1ex., 16-V-1987), 来住町 (1ex., 11-

IV-1991)。美濃郡吉川町奥山 (1ex., 17-V-1986)。加西市青野ヶ原 (1ex., 29-III-1972)。飾磨郡夢前町雪彦山 (1ex., 14-VII-1957)。多可郡加美町鳥羽 (1ex., 29-IV-1972, etc.)。神崎郡大河内町川上 (12exs., 7-V-1977, etc.)。揖保郡新宮町福原 (3exs., 7-V-1992, etc.)。相生市三濃山 (1ex., 7-V-1972)。赤穂市坂越 (1ex., 18-IV-1979)。佐用郡上月町 (1ex., 3-V-1952), 佐用町大撫山 (1ex., 15-III-1975)。宍粟郡一宮町福知溪谷 (2exs., 20-VI-1976), 波賀町音水 (10exs., 10-V-1970, etc.), 坂の谷 (2exs., 9-VI-1973)。多紀郡西紀町 (2exs., 7-V-1982)。氷上郡〔山本, 1953〕。朝来郡和田山町糸井溪谷, 竹田, 枚田岡〔上田, 1996〕。出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕。城崎郡竹野町三原, 日高町三川山〔高橋, 1975〕, 阿瀬溪谷, 竹野町坊岡〔上田, 1996〕。養父郡関宮町水ノ山 (1ex., 2-VIII-1953, etc.), 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕。美方郡浜坂町味原, 城山, 居組〔磯野, 1985〕。

129. *Gallerucida flavipennis* (Solsky, 1872)

ズグロアカハムシ

Solskyが“E. Siberia”産に基づき, *Gallerucida flavipennis*として記載した種である (Horae Soc. Ent. Ross. 8, p.257, 1872)。Jacobyが“Japan: Yuyama”から *Sphenoraia melanocephala*として記載した種 (Proc. Zool. Soc. London, 1885:748) も、本種のことである。

体背面は黄褐色, 赤褐色。頭部は黒色。体腹面は黒色。腹部側方部および末端部は赤褐色。触角, 肢全体は黒色。体長6.5-8mm。食草はノブドウが知られている。分布は本州, 四国, 九州, シベリア。

兵庫県下の記録は大変少ない。実際にはもっと広く分布しているものと考えられる。

産地：宍粟郡波賀町音水 (1ex., 21-V-1972, 1ex., 25-VI-1972)。城崎郡日高町万場〔上田, 1996〕。

130. *Gallerucida lewisi* (Jacoby, 1885)

ムツキボシハムシ

Jacobyにより“Japan: Oyama”産に基づき *Gallerucida lewisi*として記載された (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:747, pl.46, f.6)。

頭部, 前胸背板, 小楯板, 体腹面, 触角, 肢は一般に黒色。上翅は黒色で, 肩部および中央部の横帯, 末端部の斑紋は黄褐色。体形は細長く, 上翅の点刻は一樣で, 大きな点刻を揮に装う。体長6.0-6.5mm。分布は本州, 四国。

かなり珍しい種のようなのであるが, 出現期が4月下旬

～5月上旬とやや早いようで、県の中央部あたりには分布しているようである。

産地：多可郡加美町鳥羽 (1ex., 29-IV-1970), 神崎郡大河内町川上 (2exs., 7-V-1977, etc.), 宍粟郡波賀町音水 (3exs., 10-V-1970)。

Genus *Hamushia* Chûjô

131. *Hamushia eburata* (Harold, 1879)

ヨツキボシハムシ

Haroldにより“Hakone”産に基づき、*Galerucida eburata*として記載された種である (Dtsch. Ent. Zeits. 23(2): 368, 1879)。中條道夫博士は、この種をタイプに新属*Hamushia*を創設した (Kagawa Univ. Mem. Fac. Lib. Arts. & Educ. 2(31): 9, 1956)。

体、触角、肢は一般に黒色、上翅の2対の黄色紋を装う。上翅には強い点刻を密に装い、肩部、中央後方部の黄色紋には明瞭な点刻を欠く。触角第3節は、第4節よりも明らかに短い。体長5.0-5.5mm、分布は本州のみである。

兵庫県下には広く産するようであるが、記録は中央部から北に多い。

産地：多可郡加美町鳥羽 (2exs., 29-IV-1972, etc.)。宍粟郡波賀町赤西 (2♂♂, 10-V-1970), 音水 (1♀, 10-V-1970, etc.)。多紀郡篠山町小金岳 (山本, 1953)。氷上郡柏原町 (中條, 1956), 神楽村 (現青垣町) (山本, 1953)。出石郡出石町 (高橋, 1963)。城崎郡竹野町三原 (高橋, 1975), 日高町三川山 (上田, 1996)。養父郡関宮町氷ノ山 (高橋, 1975)。美方郡浜坂町味原 (磯野, 1985)。

Genus *Hesperomorpha* Ogloblin, 1936

132. *Hesperomorpha hirsuta* (Jacoby, 1885)

ケブカクロナガハムシ

Jacobyにより“Nikko, Yuyama, Kiga, Hitoyoshi”産で、*Luperus hirsuta*として記載された種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:472, pl.46, f.4)。

体背面には黄白色の細い剛毛を密に装う。体全体、触角、肢は黒色。触角は細く、♂では体長より長く、♀ではほとんど等長。体長3.3-4.3mm、食草としてヤマハノキが知られている。分布は本州、四国、九州、中国南部。兵庫県下にも広く分布している。

産地：洲本市先山 (大野, 1969)。川辺郡猪名川町上阿古谷、木間生 (仲田, 1970, 1978, 1982)。川西市笹部、大和 (仲田, 1978, 1982)。宝塚市売布ヶ丘、玉瀬 (小田中・水野, 1993)。西宮市盤滝 (1ex., 29-V-1987)。

神戸市兵庫区鳥原 (1ex., 12-V-1973, etc.)、北区山の街 (1ex., 15-V-1954, etc.)、藍那 (3exs., 5-V-1969, etc.)、山田町丹生山 (6exs., 15-V-1958, etc.)、山田町谷上 (1ex., 3-V-1957)、西区太山寺 (1ex., 29-IV-1973)、押部谷町木津 (1ex., 30-V-1984, etc.)、伊川谷町前開 (1ex., 13-V-1988, etc.)、須磨区多井畑 (1ex., 19-VI-1990)。三木市口吉川町 (1ex., 16-V-1986)。美濃郡吉川町 (7exs., 6-VI-1985)。相生市三濃山 (1ex., 8-VI-1974)。宍粟郡波賀町音水 (1ex., 31-V-1970)。城崎郡日高町奈佐路 (1ex., 19-VI-1996)。美方郡温泉町扇ノ山 (高橋, 1975)、村岡町鉢北高原 (上田, 1996)。

Genus *Lirotes* Weise, 1889

133. *Liroetis coeruleipennis* Weise, 1889

ルリナガバネハムシ

Weiseにより“Japan : Hag”産で記載された (Horae Soc. Ent. Ross. 23, p.609, nota, 1889)。

体背面、頭部は黒青色。体腹面、触角、肢は全体黒色。上翅側方は基部から後方へ全体として狭い。体長6.2-6.8mm。食草はクヌギ。分布は本州、九州。兵庫県下には広く産する。

産地：川辺郡猪名川町木間生 (仲田, 1978, 1982)。川西市一の鳥居、笹部、横地、大和 (仲田, 1978, 1982)。宝塚市玉瀬、香合新田、売布ヶ丘 (小田中・水野, 1993)。神戸市北区山の街 (1ex., 30-V-1954)。多可郡白山 (5exs., 3-V-1973)。揖保郡新宮町福原 (1ex., 15-V-1992)。相生市三濃山 (4exs., 3-V-1969, etc.)。宍粟郡一宮町福知溪谷 (2exs., 20-VII-1976)、波賀町原 (1ex., 11-V-1977)、音水 (12exs., 31-V-1970, etc.)。多紀郡篠山町雨石山 (林ほか, 1995)、小金岳 (山本, 1953)。氷上郡市島町妙高山、神楽村 (現青垣町) (山本, 1953)。出石郡出石町寺坂 (高橋, 1963)。城崎郡日高町三川山 (上田, 1996)、大岡山 (高橋, 1975)。養父郡関宮町氷ノ山 (7exs., 24-VII-1955, etc.) (高橋, 1975, 上田, 1996)。美方郡温泉町扇ノ山 (辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975)、村岡町兎和野 (磯野, 1985)、浜坂町味原、宇都野神社、清富 (磯野, 1985)。

Genus *Lochmaea* Weise, 1883

134. *Lochmaea capreae* (Linnaeus, 1758)

ズグロアラメハムシ

Linnaeusが*Chrysomela caprea* (sic.)として記載した種であり、基準産地は不明である (Syst. Nat. ed.10, p.376, 1758)。

日本からはWeiseが*Lochmaea capreae* var. *luctosa*として記録した (Natura. Ins. Dtschl. 6(4): 611, 1886) .

体背面は黄褐色, 頭部・体腹面は黒色。触角・肢は一般に黒色。体長5.0-6.0mm。食草はヤナギ類, ドロノキが知られている。北方系の種のように, 北海道, 本州, 九州, 朝鮮半島, 中国北部, シベリア, モンゴル, ヨーロッパに分布している。

兵庫県下の記録は1例しか知られていない。よく調べなくてはならない種である。

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。

Genus *Luperus* Geoffroy

135. *Luperus moorii* Baly, 1874 クロウスバハムシ

Balyが“Yokohama”産に基づいて記載した (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:188) .

体背面・腹面は黒色。触角・肢は一般に黒色で, 一部に赤褐色の個体もみられる。体長は3.7-4.2mm。食草はエノキ, ヤマハシノキが知られている。分布は本州, 四国, 九州, 朝鮮半島。

兵庫県下の記録は大変少ないが, もっと各地に分布しているものと考えられる。

産地: 神戸市兵庫区鳥原 (1ex., 3-VIII-1937, etc.) .

養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955) .

Genus *Medythia* Jacoby, 1887

136. *Medythia nigrobilineata* (Motschulsky, 1860)

フタスジヒメハムシ

Motschulskyにより日本から*Cneodes nigrobilineata*として記載された種である (Etud. Ent., 9, p.36, 1860) .

一般に赤褐色。上翅の黒色条は比較的細い。触角は黒色で, 基部数節は赤褐色。肢は黄褐色, 脛節基部は暗褐色。触角は細長い。体長3.0-3.4mm。食草はマメ科の植物で, 特にダイズの害虫である。分布は日本全国。

兵庫県下にも広く分布している。

産地: 洲本市先山〔大野, 1969〕。川西市大和〔仲田, 1979, 1982〕。宝塚市大原野〔小田中・水野, 1993〕。神戸市六甲山 (1ex., 16-VII-1962), 北区藍那 (1ex., 26-VIII-1993)。三木市口吉川町 (7exs., 14-VII-1986), 口吉川町笹原 (8exs., 3-X-1986)。美濃郡吉川町 (1ex., 27-VII-1985)。小野市来住町 (1ex., 30-V-1981)。相生市三濃山〔大野, 1967〕。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。豊岡市九日市, 桜町〔高橋, 1975〕。養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 24-VII-1955)。美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田, 1972〕, 浜坂町〔磯野, 1985〕。

Genus *Monolepta* Erichson, 1843

137. *Monolepta dichroa* Harold, 1877 ホタルハムシ

Haroldが“Hakodate”産に基づき記載した種である (Dtsche Ent. Z., 21, p.366, 1877) . 上翅は全体が黒色か, あるいは末端部が赤褐色で, 頭部および前胸は赤褐色。体腹面, 触角, 肢は一般に黒色。体長3.2-3.6mm。マメ類の害虫として知られている。

分布は日本全国。兵庫県下にも広く分布している。

産地: 三原郡南淡町灘〔酒井, 1973〕。川西市一の鳥居寒天干場〔木元・日浦, 1971〕, 笹部, 大和〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市切畑字長尾山〔小田中・水野, 1993〕。西宮市盤滝 (5exs., 3-IX-1987), 船坂 (1ex., 11-IX-1987)。神戸市六甲山 (21exs., 21-VII-1976, etc.), 兵庫区鳥原 (4exs., 11-VII-1976, etc.), 須磨区妙法寺 (1ex., 4-X-1978), 西区押部谷町木津 (1ex., 29-VIII-1984), 伊川谷町前開 (1ex., 29-VI-1988, etc.), 北区藍那 (1ex., 21-VI-1993)。三田市内 (2exs., 4-IX-1986)。三木市細川町細川中 (2exs., 11-VII-1985), 口吉川町笹原 (2exs., 3-IX-1986)。小野市山田町 (1ex., 24-IX-1987)。加東郡東条町森 (3exs., 2-VI-1984, etc.), 社町 (4exs., 8-X-1972), 三草 (6exs., 6-V-1989)。飾磨郡夢前町雪彦山 (2exs., 14-VII-1957)。多可郡加美町三谷 (2exs., 13-VII-1975, etc.), 市原 (9exs., 24-IX-1972), 鳥羽 (2exs., 5-VII-1975)。朝来郡生野町 (2exs., 4-IX-1955)。神崎郡大河内町砥ノ峰 (2exs., 3-IX-1977, etc.)。龍野市神岡町 (1ex., 8-IX-1988, etc.)。揖保郡新宮町福原 (1ex., 10-VI-1992, etc.)。佐用郡佐用町大撫山 (2exs., 15-IX-1971)。宍粟郡波賀町音水 (1ex., 11-VI-1972, etc.)。坂の谷 (1ex., 9-VI-1973)。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。豊岡市神武山〔高橋, 1975〕。城崎郡香住町佐津, 竹野町三原〔上田, 1996〕。養父郡関宮町大久保〔木元・日浦, 1971〕, 氷ノ山 (1ex., 2-VIII-1953, etc.)〔上田, 1996〕, 大屋町杉ヶ沢〔磯野, 1985〕。美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田1972〕, 浜坂町宇都野神社〔磯野, 1985〕。

138. *Monolepta kurosawai* Chûjô et Ohno, 1961

ムネアカウスイロハムシ

中條道夫博士・大野正男教授により, 石川県能登半島産をタイプにし, 本州・四国産の多数のパラタイプを用いて記載された種である (Mem. Fac. Lib. Arts. & Edu. Kagawa Univ. Part II, No.106, p.11-12, 1961) . なお, 原記載の分布の項には四国が抜けている。

キイロクワハムシに似ている。一般に赤褐色, 上翅

は黄褐色で、個体により上翅の周辺部は赤褐色となる。肢は部分的に赤褐色、触角は黒色で、基部3・4節は黄褐色。上翅側片は、基部でほぼ平行する。体長4.0-5.0mm。原記載には、食草はケンボナシとある。

兵庫県下での記録は少ないが、分布は広いように思われる。

産地：川西市畦野、一の鳥居〔仲田, 1982〕。宝塚市西谷川下川ダム〔東, 1995〕。宍粟郡波賀町音水〔木元・日浦, 1965〕(lex., 4-V-1972, etc.)。

139. *Monolepta nojiriensis* Nakane, 1963

ヒメウスイロハムシ

中根猛彦博士により、長野県産をもとに記載された種である(Fragm. Coleop. Par.5: 20, 1963)。木元新作博士が対馬産に基づいて記載した*Monolepta tsushimanum* (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(3): 393, 1965) は、本種のシノニムである。

体は一般に黄褐色、触角は黒色、基部2・3節は黄褐色。上翅側片の内縁基部は黒色。体長2.8-3.0mm、分布は本州、九州、対馬である。

兵庫県からは、木元新作博士が上記の*M. tsushimanum*の種名で養父郡関宮町大久保、鉢伏山から記録している。その他の県下における記録も多くないが、もっと分布しているものと考えられる。

産地：神戸市兵庫区烏原(lex., 10-VI-1956)。氷上郡山南町(2exs., 6-IX-1990)。宍粟郡波賀町音水(lex., 13-V-1973)。養父郡関宮町氷ノ山(3exs., 24-VII-1955)。大久保〔木元・日浦, 1971〕。鉢伏山 alt.800-1200m〔木元・日浦, 1971〕。

140. *Monolepta pallidula* (Baly, 1874)

キイロクワハムシ

Balyが“Nagasaki”産をもとに*Luperodes pallidulus*として記載した種である(Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:187)。

一般に黄褐色。触角は暗褐色で、基部数節は黄褐色。上翅側片は、基部1/4まで幅が広がり、後方へ狭まる。前胸背板の側縁はほとんど直線的。体長4.2-5.0mm。クワの害虫として知られている。

兵庫県下における分布も広い。

産地：三原郡諭鶴羽山〔酒井, 1993〕。川辺郡猪名川町杉生新田〔仲田, 1979, 1982〕。西宮市盤滝(lex., 3-IX-1987)。船坂(lex., 11-IX-1987)。神戸市住吉〔木元・日浦, 1965〕。摩耶山(4exs., 14-VII-1955)。兵庫区烏原(lex., 20-IX-1953)。北区山田町下谷上(2exs., 23-VII-1979)。八多町芦谷溪谷(3exs., 13-IX-1982)。須磨区妙

法寺(lex., 29-V-1979)。西区伊川谷町前開(lex., 6-VII-1988)。飾磨郡夢前町雪彦山〔木元・日浦, 1965〕。家島町家島〔上田, 1981〕。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。養父郡関宮町大久保〔木元・日浦, 1971〕。氷ノ山(lex., 2-VIII-1953, etc.)。美方郡浜坂町味原、城山〔磯野, 1985〕。

141. *Monolepta* sp.

産地：養父郡大屋町杉ヶ沢〔磯野, 1985〕。

Genus *Morphosphaera* Baly, 1861

142. *Morphosphaera japonica* (Hornstedt, 1798)

イチモンジハムシ

日本産として最初に記載されたハムシとして知られている。すなわちHornstedtが、*Chrysomela japonica*として記載したのが1798年のこと(Christ. Ges. Naturf. Freude Berlin, 2, pl.1, fig.1, 1798)。実に200年以上も前のことである。この種については、発見からの経緯を詳しく述べた、中條道夫博士の有益な報文がある(新昆虫Vol.IX, No.10, pp.2-5, 1956)。

胸部腹面は黒色。腹部は黄褐色で、各節の側方部に1対の黒色紋を装う。肢は全体黒色、頭部は黒色。前胸背板は黄褐色で、黒色の5紋を装い、そのうち1紋は小楯板の前方にあり、他の4紋は横一列に並ぶ。上翅、小楯板は黒青色。触角は暗褐色の基部数節を除き黒色。体長6.8-7.8mm。食草としてイヌビワ、オオイタビ、オオバアコウなどが知られている。分布は広く、トカラ諸島以北の北海道を除く日本全土、国外ではシベリア東部、中国、インドから知られている。

兵庫県下にも広く分布しており、神戸市内などでは多数採集できる。

産地：洲本市先山〔堀田, 1976〕。川西市笹部、大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市摩耶山(3exs., 27-V-1953)。兵庫区烏原(2exs., 30-V-1973, etc.)。須磨区多井畑(lex., 25-V-1990)。三木市別所町正法寺(4exs., 1-VIII-1988, Y. Nagahata leg.)。三田市千刈池東岸大岩山(lex., 16-XII-1969, Kodama leg.)。飾磨郡夢前町雪彦山(lex., 14-VII-1957)。相生市三濃山(lex., 6-VII-1973, etc.)。氷上郡沼貫〔山本, 1953〕。城崎郡日高町岩中〔高橋, 1976〕。上郷〔上田, 1996〕。養父郡八鹿町伊豆〔上田, 1996〕。美方郡浜坂町宇都野神社〔磯野, 1985〕。

Genus *Oides* Weber, 1801

143. *Oides bowringii* (Baly, 1863) キベリハムシ

Balyにより“Hongkong”産に基づいて記載された種で

ある (Trans. Ent. Soc. Lond., Ser.3, I. p.623, 1863)。

上翅は一般に緑青色。会合部、側縁部、末端部は黄褐色。前胸背板、小楯板、頭部、体腹面は黄褐色。触角は黄褐色で、先端の4節は黒色。肢は黄褐色、脛節末端部およびふ節は黒色。体長13-15mm。日本に産するハムシ科の甲虫のなかでも大型で、美しい種である。分布は朝鮮半島(?)、中国南部、ベトナム、日本であり、日本国内では現在のところ、兵庫県下にのみ分布が知られている。神戸市内の六甲山系には大変多く見られる。

神戸にいつ頃から生息していたのかははっきりしないが、少なくとも大正時代にはいたことが種々の記録から窺える。明治時代初期、あるいはそれ以前に渡来して、定着したのではないかと考えている。食草はピナカズラ、マツブサ。

“Tonkin”産で、*Oides elegans* Laboissiere, 1919 (Bull. Soc. Ent. France, 1919:161) という学名で記載された種は、本種のシノニムであるが、木元新作博士は、さらに“Tonkin”産で記載された *Oides tonkinensis* Laboissiere (1929, Ann. Soc. Ent. France, 98:252) も、新たに本種のシノニムであるとされている (ESAKIA No.27:35-36, 1989)。

産地：川西市一の鳥居〔高木, 1955〕。宝塚市切畑字長尾山, 玉瀬〔水野, 1993〕。西宮市芳楽園五番町2, 仁川町6丁目仁川河川敷〔三宅, 1990〕。塩瀬町名塩字土林〔県自然博ニュース, 1990, No.3〕。芦屋市高座〔加藤, 1934, 高坂・鎗木, 1938〕 (lex., 25-VII-1961, H. Kondo leg.)。神戸市御影〔関, 1933〕, 本山 (lex., 20-VIII-1965, 高輪武志), 六甲山〔山鳥・鈴木, 1938, 柴内, 1950, 木元, 1964〕 (lex., 21-VIII-1958, etc.), 六甲山上ケーブル駅付近〔東, 1965〕, 東灘区一王山〔柴内, 1950〕 (lex., 26-VIII-1956, 桜井雄二), 保久良山 (lex., 23-VII-1956, 前田邦夫), 中央区布引〔春木〕, 再度山〔加藤, 1934〕, 北区森林植物園〔後藤〕, 兵庫区烏原〔加藤, 1934, 柴内, 1950, 木元, 1964, 五十嵐, 1976〕 (8exs., 14-VII-1939, etc.), 平野〔加藤, 1934〕, 夢野台中学裏〔東, 1965〕, 須磨区妙法寺 (lex., 26-VII-1978)。姫路市書写山〔木村, 1976〕。多可郡中町牧野 (lex., 6-VIII-1974, Kuramoto leg.)。神崎郡笠形山〔西脇, 1965〕, 大河内町砥ノ峰 (lex., 23-IX-1976, Kuramoto leg.)。生野町栃原小段ヶ峰高原〔木元・日浦, 1965〕。佐用郡南光町船越山〔京都昆虫同好会, 1956, 朝日新聞, 1984〕。宍粟郡三方村国有林 (VIII-1952, 松井俊公), 波賀町赤西 (lex., 30-VII-1972, Hatanaka leg.)。氷上郡氷上町篠ヶ峰〔山本, 1952, 1958〕, 石戸山, 氷上・柏原

町境高見城山, 青垣町粟鹿峰, 柏原町下小倉〔山本, 1958, 仲井, 1976〕, 新井高見山, 石戸青垣山〔仲井, 1976〕, 山南町阿草, 南中〔仲井, 1976〕, 和田〔仲井, 1976〕 (lex., VII-1972, Kuramoto leg.), 谷村〔仲井, 1976〕 (lex., VIII-1972, H. Fujiwara leg.), 富田〔仲井, 1976〕 (lex., 8-VIII-1974, Kuramoto leg.), 若林〔仲井, 1976〕 (lex., 27-VIII-1974, H. Fujiwara leg.), 小新屋 (lex., 23-VIII-1976, H. Fujiwara leg.), 佐野 (lex., 24-VIII-1975, Kuramoto leg.), 五ヶ野 (lex., 13-IX-1990)〔高橋, 1991, 相坂, 1992〕, 春日町東中〔仲井, 1976〕。朝来郡和田山町糸井溪谷〔高橋, 1977〕。養父郡大屋町杉ヶ沢 (天滝と轟の間)〔奥谷, 1973〕。

Genus *Paridea* Baly, 1886

144. *Paridea angulicollis* (Motschulsky, 1853)

アトボシハムシ

Motschulskyが“China”産に基づき、*Rhaphidopalpa angulicollis*として記載した種である (1 Etud. Ent., 2, p.50, 1853)。Laboissiereが日本産で *Semacia nipponensis*として記載したものがこの種にあたる (Ann. Soc. Ent. France, 99, p.235, 1930)。

体長5.0-5.7mm。上翅の地色は赤褐色で、通常3つの黒紋を装うが、個体によっては小楯板後方の黒紋は消失し、まったく黒紋を欠く個体もある。頭部、前胸、腹部は黄褐色、中胸・後胸は黒色。触角は黒褐色、肢は黄褐色で、一部黒褐色。食草はアマチャヅル。

分布は広く、日本全土以外に、朝鮮半島、中国、台湾から知られている。兵庫県下にも広く産する。

産地：洲本市先山〔堀田, 1996〕, 鮎屋〔大野, 1969〕。三原郡沼島〔楠井, 1992〕。川西市芳生〔仲田, 1982〕。宝塚市香合新田〔小田中・水野, 1993〕。神戸市御影〔関, 1993〕, 北区山の街 (lex., 5-V-1955, etc.), 山田町箕谷 (lex., 10-V-1942), 山田町丹生山 (lex., 5-V-1956), 山田町谷上 (lex., 25-V-1986), 藍那 (lex., 8-VI-1978, etc.), 八多町屏風 (lex., 6-V-1993), 兵庫区烏原 (lex., 18-VI-1983, etc.)。神崎郡笠形山 (lex., 12-VI-1975), 大河内町川上 (4exs., 7-V-1977, etc.)。多可郡加美町白山 (lex., 27-V-1973), 鳥羽 (lex., 1-VI-1975)。揖保郡新宮町福原 (lex., 10-VI-1992, etc.)。相生市三濃山 (lex., 7-V-1973)。宍粟郡波賀町原 (lex., 11-V-1979), 音水 (13exs., 16-VII-1972), 坂の谷 (2exs., 9-VI-1973)。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。城崎郡日高町金山峠〔高橋, 1975〕, 三川山, 神鍋山〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山 (lex., 2-VIII-1953, etc.),

八鹿町妙見山〔上田, 1996〕. 美方郡浜坂町城山〔磯野, 1985〕, 温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 上田, 1996〕.

145. *Paridea quadriplagiata* (Baly, 1874)

ヨツボシハムシ

Balyにより“Nagasaki”産の標本に基づいて *Aulacophora quadriplagiata* として記載された種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:186).

体長5.0-5.7mm, 上翅の地色は赤褐色, 通常2対の黒紋を装うが, 個体によっては黒紋が相接する. 小楯板は黒色. 頭部, 前胸, 腹部は黄褐色. 中胸, 後胸は黒色. 触角は黒褐色. 肢は一般に赤褐色. 食草はキョスミギクが知られている. 分布は本州, 四国, 九州, 対馬のほか, 中国東部から知られている.

兵庫県下には広く分布しており, 普通に見ることができる.

産地: 洲本市先山〔酒井, 1973, 堀田, 1978〕. 川西市大和〔仲田, 1970, 1983〕, 笹部〔仲田, 1978, 1983〕. 宝塚市玉瀬〔小田中・水野, 1993〕. 西宮市船坂 (lex., 21-V-1987, etc.). 神戸市中央区布引 (lex., 17-V-1959), 北区山の街 (lex., 16-V-1954), 山田町箕谷 (lex., 11-V-1952), 山田町丹生山 (2exs., 5-V-1956), 山田町谷上 (lex., 3-V-1957), 藍那 (lex., 22-V-1978, etc.), 八多町屏風 (lex., 10-VI-1993), 須磨区妙法寺 (2exs., 26-I-1978, etc.), 多井畑 (lex., 24-IX-1970, etc.), 西区押部谷町木津 (lex., 11-V-1984), 太山寺 (lex., 30-V-1990), 伊川谷町前開 (lex., 19-V-1988, etc.), 兵庫区鳥原 (lex., 5-VI-1966, etc.). 美囊郡吉川町 (lex., 13-IX-1985), 奥山 (lex., 17-V-1986). 三木市大村 (lex., 10-VI-1990). 加東郡東条町森 (lex., 18-V-1984). 龍野市神岡町 (lex., 14-IX-1988). 揖保郡新宮町福原 (lex., 15-V-1992, etc.). 相生市三濃山 (lex., 8-VI-1974). 多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕. 氷上郡柏原町〔山本, 1953, 1958〕. 朝来郡和田山町玉置〔上田, 1996〕. 豊岡市森尾〔高橋, 1975〕. 城崎郡城崎町来日岳〔高橋, 1975〕, 日高町奈佐路 (lex., 25-X-1985, etc.).

Genus *Pyrrhalta* Jonannis, 1866

146. *Pyrrhalta annulicornis* (Baly, 1874)

ブチヒゲケブカハムシ

Balyにより“Hiogo”を原産地として *Galleruca annulicornis* という学名で記載された種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:177).

体長7.8-8.2mm. 一般に黄褐色で, 前胸背板側方には幅広い1対の黒紋を装う. 小楯板前方の黒色紋は前縁に達しない. 上翅には肩部に黒色紋を装う. 食草はサンゴジュ, ガマズミなど. 分布は広い.

兵庫県下にも広く分布していると思われるが, 記録は意外に少ない.

産地: 三原郡諭鶴羽山〔酒井, 1973〕. Hiogo〔Baly, 1874〕. 神戸市摩耶山 (lex., 14-VIII-1955), 兵庫区鳥原 (lex., 27-V-1980, etc.). 明石市明石公園 (lex., 29-VI-1975), 北王子町〔河野・樺本・山口, 1976〕. 三木市細川町細川中 (2exs., 26-VII-1985, etc.). 小野市山田町 (5exs., 22-VII-1987). 多可郡加美町市原 (16exs., 24-IX-1972), 鳥羽 (lex., 6-IX-1975). 宍粟郡波賀町音水 (lex., 8-IX-1972). 氷上郡〔山本, 1953〕.

147. *Pyrrhalta esakii* Kimoto, 1963

エグリバケブカハムシ

木元新作博士により“東京, 長野, 奈良, 岐阜, 大阪, 京都”産の標本を用いて記載された種である (Fragm. Col., ed. T. Nakane, Pars.4: 17, 1942).

一般に黄褐色. 前胸背板は側縁部近くに1対の黒紋を装い, 個体によって小楯板前方に小黒紋を装う. 上翅は肩部に黒紋を装う. 触角は黒色, 各節の基部1/4から1/6は黄褐色. 肢は黄褐色で, 腿節末端部・脛節背面, ふ節はさまざまな程度に暗色化する. 上翅側片は末端部近くまで等幅で, 末端部でえぐられる. 体長7.0-8.2mm. 食草はサンゴジュが知られる. 北海道, 利尻島, 本州, 九州に分布している.

兵庫県下にも広く分布していると思われるが, 記録はあまり多くない.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕. 宝塚市香合新田〔水野, 1993〕. 相生市三濃山 (lex., 16-VI-1974)〔大野, 1967〕. 宍粟郡波賀町音水 (lex., 25-VI-1972, etc.). 多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (lex., 25-VIII-1956), 大屋町杉ヶ沢〔磯野, 1985〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔磯野, 1985〕.

148. *Pyrrhalta humeralis* (Chen, 1942)

サンゴジュハムシ

Chenにより“China”産に基づいて記載された種である (Notes d'Ent. Chinoise, 9, p.17, 1942).

一般に暗黄褐色. 前胸背板側方部には, 幅広い1対の黒紋を装い, 小楯板前方の黒色紋は前縁に達する. 上翅には肩部に黒色紋を装う. 触角は末端節近くでは長さが幅の約3倍. 小楯板は台形, 上翅の点刻は弱く,

まばらに装う。前胸背板中央部の黒色紋は前縁に達する。体長5.8-6.8mm。食草はサンゴジュ・ガマズミなどが知られている。

兵庫県下には広く分布している。

産地：三原郡論鶴羽山〔大野，1969〕。洲本市先山〔大野，1969〕。川西市笹部，妙見山上〔仲田，1970，1978，1982〕。伊丹市〔河上，1984〕。宝塚市宝梅町〔東，1995〕。神戸市摩耶山 (2exs., 14-VIII-1955)，北区山田町金剛童子山 (2exs., 24-V-1956)，西区押部谷町木津 (3exs., 5-X-1984)。神崎郡大河内町川上 (1ex., 15-VII-1977)。相生市三濃山 (11exs., 6-VII-1973)。多紀郡篠山町雨石山〔林ほか，1995〕。出石郡出石町〔高橋，1963〕。豊岡市神武山〔高橋，1975〕。江本，妙楽寺〔上田，1996〕。美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田，1972〕。浜坂町味原，城山〔磯野，1985〕。

149. *Pyrrhalta maculicollis* (Motschulsky, 1863)

ニレハムシ

Motschulskyにより，“N. China”から*Galeruca maculicollis*として記載された種である (Etud. Ent. 2, p.49, 1853)。一般に暗黄褐色。上翅は肩部に黒紋を装い，さらに肩部と同じ位置から側縁に平行な黒色条を装う。触角第3節は第4節とほぼ等長。体長6.5-6.9mm。食草はニレ。

兵庫県下には広く分布している。

産地：津名郡津名町常隆寺山〔堀田，1959〕。愛宕山〔大野，1969〕。三原郡論鶴羽山〔大野，1969〕。洲本市鮎屋〔大野，1969〕。川辺郡猪名川町木間生〔仲田，1978，1982〕。川西市笹部〔仲田，1978，1982〕。伊丹市〔河上，1984〕。神戸市北区山田町箕谷 (4exs., 30-V-1943)，八多町屏風 (1ex., 22-VII-1993)，西区押部谷町木津 (3exs., 5-X-1984)，兵庫区烏原 (15exs., 30-V-1971, etc.)，須磨区多井畑 (2exs., 23-V-1990)。三木市細川町細川中 (1ex., 2-VIII-1985)。小野市来住町 (1ex., 12-IX-1991)。氷上郡神楽村 (現青垣町)〔山本，1953〕。神崎郡大河内町川上 (1ex., 18-VI-1977)。多可郡加美町鳥羽 (1ex., 8-V-1976)。朝来郡和田山町枚田岡〔上田，1996〕。城崎郡日高町上郷〔上田，1996〕。竹野町〔高橋，1996〕。豊岡市中郷〔上田，1996〕。養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 20-VIII-1953)。美方郡浜坂町味原，宇都野神社，城山，観音山，清富〔磯野，1985〕。村岡町鉢北高原〔上田，1996〕。

150. *Pyrrhalta semifulva* (Jacoby, 1885)

アカタデハムシ

Jacobyにより“Japan: Kiga”より，*Galerucella semifulva*として記載された種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:745)。Jacobyが“Nikko”産で記載した*Galerucella modesta* (I. C., p.745, 1885) および Weiseが“Kioto”産で記載した*Lochmaea japonica* (Tijdschr. Ent. 65, p.67, 1922) は，共に本種のシノニムである。

体背面は一般に赤褐色～黄褐色，小楯板は黒色。前胸背板は多くの場合中央部が黒色で，個体によっては全体が黒色。頭部，中・後胸，肢の色彩は変異に富み，一般的には赤褐色で，個体によってさまざまな程度に黒化する。触角は黒色で，個体によっては基部4・5節が赤褐色。上翅側片は末端部で不明瞭。体長3.0-5.0mm。食草はサクラ類，トサミズキなど。

産地：三原郡論鶴羽山〔大野，1969〕。洲本市鮎屋，先山〔大野，1969〕。川辺郡猪名川町木間生〔仲田，1978，1982〕。川西市笹部〔仲田，1978，1982〕。宝塚市売布ヶ丘，大原野〔水野，1993〕。西宮市盤滝 (1ex., 29-V-1987, etc.)。神戸市摩耶山〔Chûjô, 1954〕。石楠花山麓 (1ex., 1-VI-1984)，北区山の街 (1ex., 5-V-1955)，有野町逢山峡 (1ex., 27-VI-1987)，藍那 (15exs., 28-VI-1993)，八多町屏風 (2exs., 6-V-1993)，兵庫区烏原 (1ex., 9-V-1943, etc.)，六甲山 (1ex., 12-V-1986)。小野市山田町 (1ex., 23-VI-1987)。三木市本町 (1ex., 14-V-1988, etc. M. Nishida leg.)。加東郡社町三草 (5exs., 24-VI-1987, etc.)。神崎郡大河内町川上 (4exs., 18-VI-1977, etc.)。揖保郡新宮町福原 (1ex., 15-V-1992)。相生市三濃山 (3exs., 7-V-1972, etc.)。宍粟郡波賀町音水 (1ex., 31-V-1970, etc.)，坂の谷 (1ex., 9-VI-1973)。氷上郡鳴庄村 (現 市島町)〔山本，1953〕。多紀郡西紀町 (1ex., 20-IV-1982, etc. Y. Hachitani leg.)。養父郡関宮町福定～氷ノ山 (1ex., 27-VII-1957)〔木元・日浦，1971，高橋，1975〕。美方郡浜坂町宇都野神社，護国神社，城山，観音山〔磯野，1985〕。

151. *Pyrrhalta seminigra* (Jacoby, 1885)

カエデハムシ

Jacobyが“Yokohama”産で*Galerucella seminigra*として記載した種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:744)。

一般に黒色で，前胸背板後縁および上翅は黄褐色。体長5.0-7.0mm。

兵庫県下での記録はあまり多くない。

産地：神戸市六甲山 (1ex., 29-V-1987)。三木市大村 (1ex., 10-V-1990)，本町 (2exs., 11-V-1990, M.

Nishida leg.). 小野市来住町 (1ex., 21-VI-1991). 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 27-VII-1956). 美方郡温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972].

152. *Pyrrhalta takeii* (Chûjô, 1950)

オオサクラケバカハムシ

“Numata-machi, Tone-gun, Gumma-ken” で T. Takei により採集された1♀をholotypeとして、中條道夫博士が *Lochmæa* (*Tricholochmaea*) *takeii* として、図を付して記載した種である (Kontyu Vol.18, No.5, p.114-116, 1950).

全体的にカエデハムシに似ている。前胸背板・上翅は赤褐色、小楯板は赤褐色で、基部は多少暗色。頭部は黒色、前頭隆起は暗褐色。体腹面は全体黒色。触角は黒色で、基部1・2節は暗褐色。肢は一般に黒色で、脛節、ふ節は赤褐色。前胸背板後角は強く裁断される。本州・九州に分布。

兵庫県下では、磯野昌弘博士による扇ノ山からの記録が知られているだけである。

産地：美方郡温泉町扇ノ山 [磯野, 1985].

153. *Pyrrhalta tibialis* (Baly, 1874) エノキハムシ

Baly が “Nagasaki” 産で *Galleruca tibialis* として記載した種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:176). 全体黄褐色で、触角は黒色。肢は黄褐色で、脛節は黒色。体長7.5-8mm. 食草はエノキが知られている。兵庫県下には広く産する。

産地：洲本市先山 [堀田, 1978]. 伊丹市 [河上, 1984]. 宝塚市宝塚大橋 [新家, 1989]. 売布ヶ丘南口2丁目 [水野, 1993]. 神戸市兵庫区鳥原 (22exs., 2-VII-1972, etc.). 北区北鈴蘭台大山公園 (1ex., 21-VII-1972, Y. Hachitani leg.). 八多町屏風 (1ex., 6-V-1983). 須磨区須磨 (2exs., 9-VII-1982, Y. Hachitani leg.). 三田市内 (2exs., 21-IX-1941). 宍粟郡波賀町上野 [相坂, 1995]. 美方郡浜坂町城山 [磯野, 1985].

Genus *Stenoluperus* Ogloblin

154. *Stenoluperus cyaneus* (Baly, 1874)

ルリウスバハムシ

Baly が “Hiogo” 産で *Arthrotus cyaneus* として記載した種である (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874:184).

体背面は黒青色。頭部、体腹面、触角、肢は一般に黒色～黒青色。♂の触角第3節は、第2節の約1.5倍。♀の第3節は、第4節の1/2。体長3.5-4.0mm. 食草はカワチブシが知られている (木元, 1984).

兵庫県下には広く分布している。

産地：川西市大和、笹部 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市切畑字長尾山 [小田中・水野, 1993]. 西宮市盤滝 (1ex., 10-VI-1987). Hiogo [Baly, 1874]. 神戸市六甲山 (9exs., 18-VI-1967). 北区山田町丹生山 (1ex., 18-V-1958). 有野町五社 (1ex., 28-VI-1959). 西区太山寺 (2exs., 6-V-1957). 押部谷町木津 (3exs., 30-V-1984, etc.). 伊川谷町 (1ex., 7-VI-1988). 兵庫区鳥原 (1ex., 28-VI-1982). 美囊郡吉川町 (1ex., 16-V-1986). 三木市細川町細川中 (3exs., 22-V-1985). 口吉川町 (3exs., 16-V-1986). 小野市山田町 (4exs., 16-V-1987). 加東郡社町三草 (3exs., 22-V-1989, etc.). 龍野市神岡町 (1ex., 26-V-1988). 宍粟郡波賀町音水 (2exs., 4-V-1972, etc.). 豊岡市河合 [高橋, 1975]. 養父郡関宮町氷ノ山 (8exs., 24-VII-1955).

155. *Stenoluperus nipponensis* (Laboissiere, 1913)

ヒゲナガウスバハムシ

Jacoby が “Nikko, Kobe, Yuyama” 産をもとに *Luperus longicornis* という学名で記載した種 (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885:742) に対し、Laboissiere は *Luperus nipponensis* という新しい学名を与えた (Ann. Ass. Nat. Levallois-Perret, p.67, 1913). さらに、Weise は *Luperus longicornis* に対して、*Luperus jacybyi* という新名を与えた (Junk Col. Cat. 78, p.119, 1924) が、現在では表記の学名が使われている (Kimoto, 1994).

体背面は黒青色、頭部、体腹面、触角、肢は一般に黒色～黒青色。触角第3節は第4節よりやや短く、♂の第3節は第2節の3倍より長い。体長3.5-4.0mm. 食草はカエデ類。

兵庫県下には広く分布している。

産地：川西市大和 [仲田, 1970, 1978, 1982]. 西宮市盤滝 (4exs., 10-VI-1987, etc.). Kobe [Jacoby, 1885]. 神戸市北区山の街 (1ex., 16-V-1954). 藍那 (2exs., 6-VI-1965). 山田町丹生山 (1ex., 15-V-1955). 兵庫区鳥原 (1ex., 27-IV-1973). 西区太山寺 (4exs., 6-V-1957, etc.). 三木市細川町細川中 (3exs., 22-V-1985). 口吉川町 (1ex., 16-V-1986). 小野市山田町 (4exs., 16-V-1987). 加東郡社町三草 (1ex., 7-V-1987). 宍粟郡波賀町音水 (2exs., 20-VII-1959, etc.). 坂の谷 (2exs., 9-VI-1973). 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 氷上郡鳴庄村 (現 市島町) [山本, 1953]. 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955) [中根, 1953]. 美方郡温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972].

Genus *Taumacera* Thunberg, 1814

156. *Taumacera tibialis* (Jacoby, 1885)

クロバヒゲナガハムシ

Jacobyにより“Nara, Kobe, Maiya-san, Nikko”を産地に、*Aenidea tibialis*として記載された種である (Proc. Zool. Soc. Lond., 1885, p.750, pl.46, fig.8)。

上翅は黒色。小楯板は黒褐色。頭部、前胸背板、体腹面、肢は赤褐色。触角は暗褐色。♂の触角第3節から第10節までは肥厚し、強く湾曲してその下面に長い剛毛を密に装う。♀では正常。

上翅の点刻は弱く、まばらに装う。点刻間室にはほとんど点刻を欠き、表面にはさめ肌状の印刻を装う。体長は4.2-5.5mm。分布は本州、四国、九州。

兵庫県下からは、原記載以後、2ヶ所しか記録が知られていない。もっと調べなくてはならない種である。産地：川西市大和、笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市摩耶山〔Jacoby, 1885〕。

追加：ヒゲナガハムシ亜科 (Glerucinae) に属する次の種が兵庫県から記録されているので、ここに追加種として記録しておく。

Ophraella notulata (Fabricius, 1801) ブタクサハムシ

本種の日本国内における発見は、1997年に朝霞市岡2丁目において大野正男が発見した記録であるかと思う (昆虫と自然, Vol.32, No.11, p.35, 1997)。北米東部に広く分布し、その分布はメキシコにまで及ぶとのことである。北米から輸入されつづけている家畜用の干草にまぎれて侵入してきたのではないかとされている。

W. Junkのカタログを見ると、*Galerucella notulata* Fabriciusという学名で収録されており (Coleop. Cat. 78: 58, 1924)、原記載はFabricius (Syst. El. 1, 1801, p.489) となっている (E. Zimsemの“The Type Material of I. C. Fabricius”によると、p.110, *Galleruca notulata* Syst. El. I, p.489, 57 in Caralina Mus. D. Bosc-(Keil 5 specimens)とある)。

安川源通は、東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県に分布していることを報告した (Scias Vol.2, No.20, p.6-7, 1997) (この報告と大野教授の発表とは、発表誌の出版日付が逆になっているとのこと)。その後、岩田隆太郎・岩田厚子は神奈川県下に本種が分布することを紹介し (月刊むし, No.325, pp.43-44, 1998)、近畿地方では市川顕彦・細井孝昭・宮武頼夫が大阪府枚方市東淀川河川敷で記録した (Nature Study, 1998(3): 7-8)。さらに東浩司は大阪府豊中市ならび

に兵庫県尼崎市の記録を報じた (ねじればね, No.80: 11, 1998)。兵庫県下からの記録はこれが初めてのものであり、産地は尼崎市椎堂猪名川河川敷であった (5exs., 16-VIII-1998)。さらに西本裕は、神戸市東灘区住吉山手、灘区六甲台町、北区有野町、北区道場町、芦屋市前田町、西宮市山口町、朝風町、尼崎市末広町、伊丹市中野東、宝塚市波豆、切畑と多くの産地を示している (兵庫生物ニュース, No.37: 251, 1999)。

兵庫昆虫同好会の近藤伸一氏は、県下を広く調査され、次のごとく多くの産地を確認された。尼崎市西大島、芦屋市山手町、神戸市東灘区住吉台、住吉山手3丁目、灘区桜ヶ丘町、中央区布司谷、西区岩岡町、伊川谷町有瀬、伊吹、神出町東、北区山田町衝原、明石市鳥羽、大久保町大窪、西新町、稲美町印南、三木市別所町花尻、小野市浄谷町、船木町、加東郡社町社、滝野町上滝野、西脇市富田町、加美町寺内、竜野市揖保今市、揖保郡新宮町、赤穂市有年横尾、上郡町山野里、船坂、高山、行頭、朝来郡山東町金浦と、産地は県下の中・南部全域に及ぶが、但馬地域と淡路島ではこれまでのところ、生息が確認できていないという (私信, 1998年10月8日)。

すでに四国 (月刊むし, No.343, 1999)、山口県・福岡県 (月刊むし, No.345, 1999) での記録も報告されている。西日本全域に分布が広がる日も近いのであろう。

但馬むしの会の年会費は3000円です。

会費未納の会員は速やかに

お支払いください。

また、本誌に寄稿された方は、

原稿掲載料として

1000円をお支払いください。

25号に向けて、カンパも募ります。

郵便振替は、

01120-3-16245, 但馬むしの会, です。